

御礼 「震災地区の新一年生に図書カードを贈る活動」

このたびは、私どもの呼びかけにご賛同・ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

おかげさまで300枚ほどの図書カードが集めることができました。

カードだけでなく、皆様からあたたかいメッセージを添えていただきましたことにも感謝しています。

また福岡の有限会社友田商会様からシャボン玉を300個近くをお送りいただきましたのでカードとセットにして被災地の子供たちへプレゼントし、たくさんの笑顔に接することができました。

ご協力一覧(順不同)

友田 和哉 様(有限会社 友田商会 様)

田邊 健史 様(協働ステーション中央 様)

岡田 忠義 様(財団法人東京都中小企業振興公社 様)

廣瀬 哲朗 様(特定非営利活動法人 九曜クラブ 様)

日本橋大伝馬町一之部町会 青年部 様

天ぶら秋山 様

西村会計事務所 様

橋本 ヨシ子 様(高島平あやめ保育園 様)

小黑 朝子 様(高島平あやめ保育園 様)

池田 多子 様(高島平あやめ保育園 様)

伊藤 様(東京都中央区ご在住)

野坂 史枝 様

奥住 いづみ・亜佑 様

藤井 智栄子 様

日本アイ・ビー・エム株式会社アメリカンフットボール部様

社会福祉法人 特別区社会福祉事業団の22人の皆様

りゅう 様(東京都新宿区ご在住)

中野 銀次郎・江里 様

高下 和也 様(株式会社リライнс様)

小川 エドワード 様

柏木 敏朗 様

大津 智美 様

中村 博次 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

木下 幸一 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

中野 恒男 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

樋口 威正 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

井島 匠 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

坂本 裕孝 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

並木 亮介 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

佐々木 美奈子 様(損保ジャパンひまわり生命様)

菊永 信一 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

勇 隆太郎 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

山本 和弘 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

沼田 義久 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

古川 勝也 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

濱中 直樹 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

小林 克次 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

戸田 充俊 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

伊藤 哲也 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

横井 雅彦 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

志田 典康 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

遠藤 貞明 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

保科 宗央 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

兵庫県教育委員会 様

滝沢 直之 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

松元 清 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

松崎 昭人 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

工藤 則之 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

岸 高義 様(損保ジャパンひまわり生命 様)

多田 昌幸 様(ホグレルスペース会員 様)

浜口 千代子 様(ホグレルスペース会員 様)

園元 淳 様(ホグレルスペース会員 様)

長野 のり子 様(ホグレルスペース会員 様)

土田 直弘 様(ホグレルスペース会員 様)

天宮 正之 様(ホグレルスペース会員 様)

高橋 利絵子 様(ホグレルスペース会員 様)

宇田川 亜季 様(ホグレルスペース会員 様)

橋本 延年 様(ホグレルスペース会員 様)

一木 摂子 様(ホグレルスペース会員 様)

松村 仁美 様(ホグレルスペース会員 様)

財団法人 東京都体育協会 様

宮地 藤雄 様(トレイルランナー)

中村 正明 様(セコム株式会社 様)

朝倉 新 様(株式会社Keep up 様)

曾田 ユキコ 様(株式会社 ミゲル 様)

みなさまからのご寄付・ご支援 誠にありがとうございました

4/13～4/14早朝

21:30 息子と二人、はじめの目的地600km先の岩手県岩泉小学校を目指し東京を出発しました。東北道は開通したとはいえ段差がすごいです。

右の写真のようなひどい状況は改善されていますが、当日、福島で国見IC付近は大掛かりな補修工事で車線規制されていました。余震の影響かもしれません。

埼玉から段差はありましたが、福島以北は路面を注意深く見てブレーキしながらの運転が必要でした。
(見落とすと車と支援物資が飛び上がります)

競技・TR・帰省で走りなれた道路ですが、これまでの平らな道路との違いに驚きました。(この1月・2月にも走行しました)



ひび割れが入った福島県の東北道国見IC付近



平泉前沢IC～水沢IC(上り線)の盛土変状

道路反対の上り路線には赤色灯をつけたパトカー・消防車が被災地での作業を終え走行していました。

岩手までの走行中にすれ違った数はおおよそ300台。

4:30 (日付かわって14日) 目的地の岩泉小学校近く、岩泉駅に到着して仮眠。途中、滝沢ICで高速道路をおり、山道を走りましたが雪のまだ多く残る山道には折れたり、倒れたりしている木がたくさんあり山間部での地震による揺れの大きさを物語っていました。また、深夜にもかかわらず静かな山道をキャリアカーが数台走っていました。復旧のため、自動車を沿岸方面大量に運んでいる様子です。

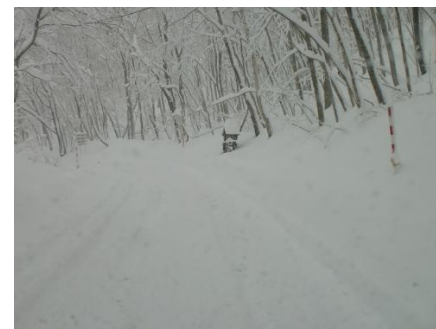
岩泉線は地震の影響で運行休止とおもいきや、昨年夏の土砂崩れ以来バスの代行運転をしているそうです。

地震による事故に繋がらずよかったですが、復旧には更に時間がかかりそうです。

<予備情報>

4/20(水) 岩泉では、一晩で重い雪が30cm降り積もり、近隣の道路は概ね深夜～昼まで通行止めになりました。

訪問した1週間まえは20℃の暖かさでしたが、本格的な春まで揺さぶるような大きく変化する天候に、復旧作業を行っているみなさんはたいへんなご苦労をされていることでしょう。



4/14(木)その1

9:00 龍泉洞近くの岩泉小学校を訪問。沿岸の小本小学校が場所を移し入学式・授業を行うとの情報に従い、直接校長先生に訪問趣旨を伝え、受け入れていただき色々とお話を聞きました。

児童のご父兄で消防団だった方が、水門を閉じる作業中に津波に遭い、お亡くなりになったとのこと。町民の皆さんを守るため犠牲になってしまいました。小本小学校の児童は避難所で生活している人を含め、毎朝7時小本に集合して20K離れた岩泉小学校まで集団バス通学します。

今回の活動趣旨は新一年生への贈り物ということでしたがご賛同方から対象を児童全般に広げてほしいとのご要望を受け、図書カード&シャボン玉を小本小学校全児童に贈りました。

式では、新一年生の‘元気なあいさつ’が響いていましたが相対して、ご来賓の祝辞では、言葉につまるような心境複雑な様子で痛々しかったです。

校歌の歌詞に、「♪太平洋に虹がかかる」と聞き、風景が頭に浮びました。いつもは平和な海だったのだとおもいます。



式後、取材を受け、翌朝の地元紙にわたしどもの活動が掲載されました。



4/14(木)その2

13:30 津波で被災した小本小学校を訪問。今は水が引いて静かな校庭ですが、海水が砂に交じり異臭がするため土の入れ替えが必要で校舎の中も掃除・乾燥・消毒をして、2学期から子供たちが戻って来られる様に作業を進める予定だそうです。町は復旧に向け、がれきをよけたり、修復したり前に向かい進んでいるように見えました。



3/11 町を襲った津波

(下写真)小本小学校の児童を救った学校裏手の津波避難階段。

従来の避難経路に対し、岩泉町長が「海にむかって逃げるのはおかしい」と国土交通省に提言し、平成21年3月完成したもの。避難時間を数分短縮でき、全員無事でした。



(関連情報として)

小本小学校の避難に対して、右写真の石巻市立大川小学校の状況は悲惨です。8割の児童が死亡・行方不明。大川小は北上川河口付近の僅かな平地部分にあり、背後は急な山という地形。小本小も大川小も同じような地形にありました。

しかし、災害時の避難体制が不十分だった大川小。小学校裏山は急斜面で足場が悪く、そうした状況から当日、児童たちを引率した教諭は学校から約200m西側にある新北上大橋のたもとのわずかな高台を避難場所とし、川沿いを列をなして歩いていました。その途中、堤防を乗り越えて北上川からあふれ出した巨大な波が列前方からのみこみ、列後方にいた教諭と数人の児童は向きを変えて裏山を駆け上がるなどし、一部が助かったそうです。水にむかって避難してしまったそうです。

まさか、こんな事態になるとは...



4/14(木)その3

14:00 小本を離れ、宮古方面に海沿いを走りました。高台からの景色は平和な海が広がっていましたが、よく見ると大きな岩の上にはえている松の木が折れていました。津波の傷跡とおもわれます。

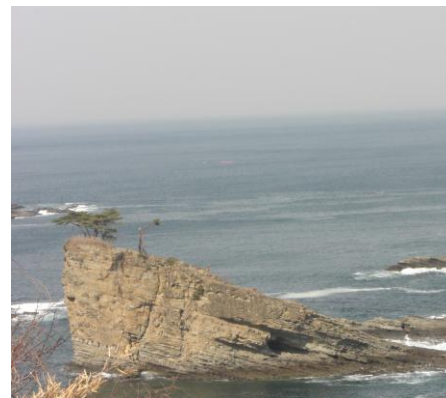
そして情報収集のため、道の駅たろうに立ち寄りました。本格的な観光客のための営業はしていませんでしたが、町で少ない買い物ができる場所として多くの住民の方の姿がありました。そこにいた幼児二人に声をかけてみましたが、ちょうど小学校にあがるところと聞き、子供たちがシャボン玉遊びをしている間、ご父兄に活動について話をし、受入していただきました。

4/26(火)宮古市立田老第一小学校入学式の際
先生から新一年生に図書カードとシャボン玉を
渡していただきます。

みなさん、お元気で不便はないと言いますが、よく話を聞くと固定電話が繋がらず復旧は1ヶ月先とのこと。町に設置された無料電話までは遠く、携帯電話での通話料が心配と話されていました。

また、停電が長く続いていたので震災の全貌がわからないという話もされていて、東京の心配をしてくださっていました。夏の海水浴の話題では、「海が怖い」と本音を漏らされていたことが印象的でした。

巨大岩上部の木が折れていました



がれきだらけの町を歩くと危険がいっぱいだそうです。釘やガラスがあるので、子供には長靴を履かせています。

子供同士は知り合ってすぐにかくれんぼ・鬼ごっこなどシャボン玉のおかげで仲良しになりました。子供たちは元気です！



4/15(金)

盛岡にあるみちのくみどり学園という施設を訪ねてみました。

このたびの震災で両親を亡くし、孤児となってしまった児童に図書カードを贈るため東京で耳にした情報を元に、お話しを伺いに行きました。しかし、施設での受入はまだありませんという話でした。

今回の震災で孤児になった児童数は100人を超えていますが、遠方の親戚の所に身を寄せるなどしているケースもあり、正確な人数は判明していないそうです。

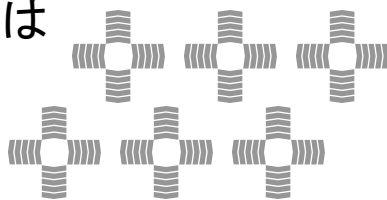
各地から里親を希望する連絡があるけれど、なるべく生まれ育った場所から引き離すべきではないと専門家の指摘もあり、慎重な判断が必要です。

孤独になってしまった子供たちの心を癒してあげる機会があればとおもいます。

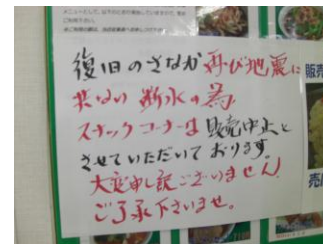
17:00 地震・停電で疲労をためた実家の母親を連れて、網張温泉に行きました。平日の夕方に子供の姿があったので、話しかけると宮古から盛岡の親戚のところに来ていて、明日戻るということでした。「父親の働いていた郵便局が津波で流された」と話してくれましたが、お父さんはどうなったの？とは聞き返すことができませんでした。

女湯に入っていた小学2年の男の子の話ですから、もしも...

とおもうと躊躇してしまいました。「気をつけて帰ってね」と話したら笑顔を返してくれました。



9:30 仙台の小学校入学式を目指し、早朝に盛岡を出発。途中、岩手と宮城の県境を越えた金成PAに立ち寄りしました。大きな余震の影響で断水中。レストランは営業停止、トイレは川の水のような濁り水がドラム缶に蓄えられ、使用後バケツで流すようにと貼り紙がありました。



11:00 仙台市若林区にある蒲町小学校に到着。こちらは震災直後、死体が200-300体みつかったと報じられていた同区荒浜にほど近い学校。海から少し内陸に入ったエリアなので、津波の被害を受けずにすみましたが、校舎の亀裂・段差が激しく、危険なため使用することができず、授業は近くの中学校を間借りして行うそうです。

↓震災直後、青葉区の体育館。停電の中、大勢の人の避難場所となり不安な夜を過ごした



←地震により西校舎と東校舎の段差が20センチ以上



←蒲町小学校入学式は建物被害のなかった同校体育館で無事終わりました



式直前の忙しい時間にも関わらず、校長先生をはじめ新一年生の担任の先生に私どもの活動趣旨を聞いていただき、遠く離れた東京から子供たちにエールを送っている人たちがたくさんいることにご感激いただきました。

式後、新一年生に図書カードとシャボン玉を贈りました。

14:00 式後、オリンピックモーグル元代表の畑中みゆき選手の塩竈にあるご実家に支援物資を届けるため津波で被災した若林区、仙台港横、多賀城市を通り向かいました。田園地帯、住宅街、都市部とそれぞれに異なった津波の被害がそこにはありましたが地元の人は道が通れるようになり、だいぶきれいになったと話していました。

この日の最後には、石巻に支援物資を届けに避難所に立ち寄りしましたが、小高いお墓まで車がのりあげるなど悲惨な状況が随所に見えました。



18:00 福島県双葉町の避難所となっています埼玉県旧騎西高校。その避難所から、程近い小学校に入学した子供たちに図書カードを贈ろうと訪ねてきました。ちょうどお弁当が配布される夕食どきで、避難所の中でも家族団らんの時間でしたから直接子供たちと会ったり、話したりすることはできませんでした。

そして、職員の方に活動概要を伝え、教育委員会の方とお話することができました。

もともと町では、学校の読書運動に力を入れていたそうで学校図書が豊富だったとのこと。でも、地震・津波・原発の3重被害により、本を持たずに町を後にしたことが心残りだと話されていました。

読書が心に、考え方に、人間形成に与える影響は大きく、子供はスポンジのように吸収していきます。

決して大きくはない贈り物ですが、とても喜んでいただき子供たちに渡していただけることになりました。

一日も早く、みなさんが故郷に戻られる日が来ることを祈りたいです。



廃校になった騎西高校が避難所となり、電気が灯った

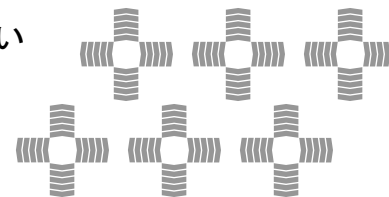


校庭にはいわきナンバーの車で
いっぱいになっていた

今、福島の方々は主に原発から出る放射能の危険にさらされ各地に避難をせざるをえない状況下、ご不便な生活をされています。

その方々をサポートするべきなところ、反対に嫌がらせなどとてもない現状がニュースなどで伝えられています。

たいへん残念なことが現実には起きていますが、そのようなことを防ぐことに協力したいですし、そのようなことがない社会になってほしいです。



まとめ

寄贈学校一覧(平成23年4月20日現在)

- ・岩泉町立小本小学校(岩手)
- ・宮古市立田老第一小学校(岩手)
- ・仙台市立蒲町小学校(宮城)
- ・福島県双葉町の一部の小学生

震災の被害を受けた学校があまりに多く、これまでの寄贈活動の際、学校選定に苦慮しました。入学式日程が遅れていて、このあと5月10日すぎにやっとという学校もあります。残りの図書カードに関しても、みなさんの善意をどう生かしていけばよいのか、よく考えて決めてまいります。残りの報告はHP上のみとさせていただきます。ご了承くださいますよう、よろしくお願いいたします。

活動が一段落し、活動を振り返ったり、今後についてどうあるべきか考えてみました。このたびの活動で、何を届けることができたのか？答えは、心の栄養だったとおもいます。炊き出しの支援は体の栄養で生きていくために絶対的に必要なものです。私どもの活動は、皆さんのメッセージや本を読むことで満たされるであろう心の栄養につなげることができたと考えています。

今後も必要な物資を準備したり、運んだり、募金をしたり、ボランティアに参加したり直接的な支援活動を可能な限り続けていくとともに、遠く離れていても同じ時代を生きたものとして被災地の方々に心を寄せ、共に乗り越えるための支えになれるよう、私は目をそらさずにいたいと思います。

雨にも負けず、津波にも負けず 支えあいの精神で復興を祈ります

雨にも負けず

宮沢賢治

雨にも負けず 風にも負けず
雪にも 夏の暑さにも負けぬ 丈夫な体を持ち
欲はなく
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に 玄米4合と 味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに よく見聞きし 分かり
そして忘れず
野原の松の林の陰の小さな茅葺き小屋にいて
東に病気の子どもあれば 行って 看病してやり
西に疲れた母あれば 行って その稲の束を負い
南に死にそうな人あれば 行って 怖がらなくてもいいと言い
北に喧嘩や 訴訟があれば つまらないからやめろと言い
日照りの時は 涙を流し
寒さの夏は おろおろ歩き
みんなにデクノボーと呼ばれ
ほめられもせず 苦にもされず
そういうものに わたしはなりたい